

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な人々と協働することで、子どもたち一人ひとりが Society5.0 を生き抜くために、展望を持って自らの人生を切り拓き、「自分で未来に近づく」人材を育成します。また将来の「地元」を担う人材育成の基盤としての役割を果たします。

総合学科の特色を生かし、様々な学習や体験を通して、基礎学力に加えてこれからの社会で生き抜くために次の「白稜シッポ」を育みます。

1. どんな時も投げ出さない、考え抜く強さをもちます。
2. ゴールに向かって、多くの人と協働します。
3. 変化を恐れず、一歩前へ踏み出します。
4. 創りだすことを楽しみます。

2 中期的目標

1 考え抜く力を育む（白稜シッポ1）

- ・生きて働く「知識・技能」の習得を図り、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む。
- ・間違いを恐れず、生徒が自らの課題を見つけたり、考えたり学びを深めたりできるように主体的・対話的で深い学びを推進する。
- ・学校設定科目「リーディングスキル基礎」「同 応用」を通して、すべての学習の基礎となる「読んでわかる力・聞いてわかる力・見てわかる力」を育む。
- ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通して教員の授業力向上を図る。そのためにパッケージ研修などにも取り組む。

2 人と協働する力を育む（白稜シッポ2）

- ・社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取組みを進める。
- ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取組みにより、生徒の自尊感情を育む。
- ・「産業社会と人間」やLHR、総合的な探究の授業での学びや体験を通して「他者の立場にたって考える」など社会人としての基礎力を身につけさせる。

3 踏み出す力を育む（白稜シッポ3）

- ・「産業社会と人間」の授業をスタートに、科目選択や3年間のキャリア教育、体系的な進路指導を通じて、生徒が自ら目標を選択、決定し、その達成に向けて行動する力を育む。結果として進路決定率を保持する。
- ・外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を育てる。
- ・インターンシップや職場見学を充実させ生徒の社会への視野を広げることで、生徒の経験やSES（社会経済的地位）に関わらない進路実現を促進する。
- ・学校設定科目などを通じ、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育てる。

4 創造する力を育む（白稜シッポ4）

- ・「産業社会と人間」、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間などを基幹とし、すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やし、表現力を育てる。
- ・身につけた知識や情報を生かして、企画・制作・発表などを行い、学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
- ・清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。

5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり

- ・生徒の実態把握に努め、関係者間で情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- ・外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。「わたしカフェ」の取組みを継続させる。
- ・SC、SSW等の専門人材、福祉等の関係機関との連携を深め、「社会とのかかわり」という視点も持ちつつ、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。

6 学校の運営体制

- ・カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを確立させる。
- ・「大阪府教員等研修計画」を活用し、研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続する。
- ・本校の特色や状況に応じた長時間勤務の一層の縮減に向けた取組みや、時間や健康の管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。
- ・より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。

* 令和4年度目標

- ・進路決定率を全国平均以上（H30 泉尾高校 94%、R1 泉尾高校 90.5%）
- ・学校教育自己診断における「白稜シッポ」の肯定率平均を75%以上（「考え抜く」H30年度 52.9% R1年度 63.1%、「協働」H30 60.4% R1 72.7%、「チャレンジ」H30 56.8% R1 69.3%、「創りだす」H30 54.2% R1 57.2%）
- ・就職1次内定率75%以上で、就職内定率100%を維持（R1 泉尾高校 1次内定率71%、内定率100%）
- ・京都産業大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学、摂南大学、神戸学院大学、追手門大学、桃山学院大学等への進学者10名（R1 泉尾高校 0人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ・「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、「わかる授業」をめざし、グループワークなどに取り組んだ。「わかる授業づくり」については、肯定的な意見が、生徒 80.7%、教職員 88.6%であり、昨年に引き続き目標値には達成しているものの、この差をできる限り縮めるのが課題である。</p> <p>【生徒指導等】 ・生徒指導室、進路指導室への常駐教員を今年度も配置し、居場所カフェによる相談支援体制を充実させ、教員間の情報共有を密にして取り組んだ。しかしながら、生徒向けの質問「悩みがあるときに相談したいと思う先生がいる」の肯定率が 49.9%と低くなってしまった。居場所カフェに参加する生徒も今年度は増えた現実もあり、この事実を全教職員で再確認し、生徒が安心して相談できる体制づくりを強化する必要がある。さらに、居場所カフェとの連携も重要であるという認識が必要である。</p> <p>・生徒指導についての肯定率は、生徒 63.6%、保護者 77.3%、教職員 80%であり、「生徒に寄り添う指導」をさらに充実させていきたい。</p> <p>・学校と家庭の連携については、LINE、まちコミメール、ブログ、ツイッターなど複数の手段で連絡を取れる体制を作ったおかげもあり、学校情報の提供に関しての保護者の肯定率は 81.9%である。今後も積極的な発信を心掛けたい。</p> <p>【進路指導等】 ・進路実現に向けての取り組みは、先生方の指導のおかげで、予想以上の成果をあげている。進路に関する肯定率は、生徒 82%、保護者 86.2%、教職員 94.3%と高水準であり、生徒一人ひとりに決め細やかな手厚い指導ができています。</p> <p>・今年度はコロナ禍の中での進路指導であったが、まだまだ連携不足なところもあり、さらなる拡充をめざしたい。</p> <p>【学校運営】 ・教育活動について、「教職員での日常的な話し合い」の肯定率が昨年の 53.5%から今年度は 80%と大幅に上昇した。コロナの影響も大きいと思うが、管理職、首席を中心とした、話し易い、相談し易い雰囲気づくりが功を奏したと思われる。</p> <p>・校内時間外勤務時間は、昨年度から 50%減少した。</p>	<p>【第1回 令和2年8月25日 書面開催】 ・生徒一人ひとりに生きる力を身につけるため、しっかりとした教育目標・計画を立てていると感じている。この計画に沿ってしっかり教育活動を行っていただきたい。</p> <p>・今年度についてはコロナ禍の非常時での教育活動であり、目標・活動・評価のいずれもが平常時のままであるとすれば、この非常時には逆に大きな足かせとなり、業務を多忙化させるのではと懸念があります。生徒や教職員の安全確保を最優先していただき、教育課程を柔軟な運用をお願いします。</p> <p>・本校の取り組み内容を府下の中学校にアナウンスする方法について、再考していただきたいと思います。</p> <p>・3年生の進路状況が知りたい！</p> <p>【第2回 令和3年1月15日 書面開催】 ・3年生（1期生）の進路状況が例年よりステップアップされていて、白稜シップの教育効果が現れていると思います。これをさらに推し進め、入学をめざす生徒や中学校にアピールしてください。</p> <p>・進学実績もそろい始め、良い実績でうれしく思います。より具体的に進学、就職の詳細、人数、指定校の大学名等を学校説明会で知らせていただきたいと思います。</p> <p>・コロナ禍の中で、体育祭や文化祭が実行され、とても盛り上がる素晴らしいイベントが良かったと思います。生徒と先生方が一体となり「これが大正白稜だ！」という気合いを感じました。</p> <p>・先生方のご負担はどれくらいありましたか？先生方の働き方改革については？</p> <p>・オンライン授業と対面授業の成果の違いはありましたか？</p> <p>【第3回 令和3年2月19日 書面開催】 ・コロナ禍のなか、学校運営を滞りなく進めて頂きありがとうございました。</p> <p>・何件かあったコロナ陽性が出た際のスムーズな連絡（まちコミなど）が良かったです。親も子供も安心して過ごせました。</p> <p>・学校ホームページの進路実績が H31 年度までで止まっていて古い情報の印象を受けます。また、可能なら・受験方法・学科などの詳細があれば中学生やその保護者が高校を選ぶ際の安心材料につながります。また、卒業生インタビューも早く 1 期生に変えるほうが良いと思います。</p> <p>・新型コロナウイルス感染が続く中、教職員の皆様のご尽力に感謝致します。ありがとうございます。学校経営計画において、白稜シップをより強力に推し進めて頂き、大正白稜高校の特色と実績を広くアピール願いたいと思います。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実 (2) わかる授業、充実した授業づくり	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせる主体的、対話的で深い学びの推進。 イ. 朝活動と連携しながら、「リーディングスキル基礎」の授業を通して、読解力を育む。 (2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ. 校内や近隣の小中学校を含む他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ. 授業見学週間を年2回以上設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。 エ. 大阪府教育センターのパッケージ研修に組み、教員の授業力の向上を図る。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 75%以上（泉尾 H30：75% R1：77%） (2) ア 授業アンケート2回目での「興味関心が持てた」の「とても」の割合 45%以上（R1：41%） ウ 見学週間の回数2回以上 1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」（白稜シップ1）の肯定率を 60%以上とする（R1：63%）	ア. 生徒向け肯定率 80.7%（○） ア. 授業アンケート2回目での「興味関心が持てた」の「とても」の割合 43.4%（△） イ. ウ.（○） コロナ禍により授業見学週間は1回になってしまったが、1回の期間を増やして実施した。 ・授業見学週間の拡充 10月26日～12月3日 ・リーディングスキルの出前授業、授業見学 9月8日 11月11日（大阪市教育センター来校） 1 白稜シップ1の肯定率 63.6%（○） エ. パッケージ研修 9月1日 全体研修 11月27日 研究授業 12月22日 全体研修 パッケージ研修の満足度 86.1%（◎）

府立大正白稜高等学校

2 人と協働する力を育む	社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	<p>ア. 「産業社会と人間」、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、特別活動などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。</p> <p>イ. より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。</p> <p>ウ. 文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を70%以上 (R1:76%)</p> <p>イ. 清掃活動に参加する生徒の率を60%以上 (R1:72%)</p> <p>2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シップ2)の肯定率を65%以上とする (R1:72%)</p>	<p>ア. 「人権」肯定率 74.1% (○)</p> <p>・人権 HR 命の大切さ、SNS への注意、いじめ問題、性に関する講演会</p> <p>イ. コロナの影響で、1回しか実施出来ず。生徒の参加率 31% (ー)</p> <p>ウ. 規模を少し縮小しての学校行事の実施 体育祭 11月13日 文化祭 11月20日</p> <p>2 白稜シップ2 肯定率 63.8% (△)</p>
3 踏み出す力を育む	学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実	<p>ア. 様々な学習や、2、3年次の科目選択、それに向けたガイダンスを通して、自らの目標を設定し、その実現に向けた取組みを進める</p> <p>イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。また資格取得にも積極的に取り組む。</p> <p>ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。具体的には上記のような進路行事の回数を各学年3回以上とする。</p>	<p>アイ 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を75%以上 (R1:83%) ウ年間の各学年進路行事3回以上</p> <p>3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シップ3)の肯定率を65%以上とする (R1:69%)</p>	<p>ア. イ. 「進路」肯定率 82% (○)</p> <p>ウ. 進路行事の回数3回 (○)</p> <p>・外部講師、卒業生、地域人材に来ていただき、講演や学習を行った。 ・地元の企業との連携を図った。</p> <p>3 白稜シップ3 肯定率 80.1% (◎)</p>
4 創造する力を育む	(1) 学習活動における発表機会の充実 (2) 地域との交流	<p>(1) ア. アクティブラーニングを推進し、授業における生徒の発表機会を充実させる。</p> <p>イ. 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」などで、ディベートや発表会を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。</p> <p>ウ. 新たに土曜日に実施予定の「発表大会」(仮称)の場で、地域の人や中学生、保護者などに対して学んできたことを発表し、学びを人生や社会に生かそうとする力を身につけるとともに、未知の状況の中での表現力の育成を図る。</p> <p>(2) ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。</p>	<p>(1) アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業では、グループ活動や実験・実習、発表など様々な取り組みの工夫がある」の肯定率75%以上 (泉尾 R1:77%)</p> <p>(2) ア 年間5回以上の交流機会を設けることができたか。</p> <p>4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シップ4)の肯定率60%以上をめざす (R1:57%)</p>	<p>(1) ア. イ. 「授業の取り組みの工夫」肯定率 80.7% (○)</p> <p>ウ. コロナの影響で今年度は実施出来ず、来年度に実施する方向で検討中 (ー)</p> <p>(2) ア. コロナの影響でほぼ実施出来ず、1回のみ。 (ー) ・大正区のものづくりフェスタ (オンラインによる)</p> <p>4 白稜シップ4 肯定率 62.3% (○)</p>
5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	<p>ア. 生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。</p> <p>ウ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率65%以上 (R1:65%)</p> <p>イ 中学校訪問、家庭訪問回数、各ケースごとに1回以上 ウ 生徒支援委員会(保健、人権、SC、SSWなどを含む)を立ち上げる。</p>	<p>ア. 「生徒相談」肯定率 49.9% (△)</p> <p>・「居場所カフェ」の実施(昼休み・放課後) ・教育相談委員会、人研教育推進委員会、いじめ対策委員会、生徒支援委員会等の連携強化及び教育支援体制の確立</p> <p>イ. コロナの影響で、あまり訪問出来ず。(ー) ・中学校との情報交換及び中学校教員との連携 ・保護者との連携強化</p> <p>ウ. 生徒支援委員会を立ち上げた (○) ・支援体制の充実</p>

府立大正白稜高等学校

6 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	<p>ア. 「チーム学校」にとどまらず、さらに自治体、高等教育機関、産業界、地域 NPO 等との協働による「コンソーシアム」の構築を視野に入れ、進学・就職に係るインターンシップ等も含む新たなカリキュラムをマネジメントする。</p> <p>イ. 計画的な教職員研修の実施</p> <p>ウ. 学年が連携した学校運営</p> <p>エ. 「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動のガイドラインに沿った取組みを進める。</p> <p>オ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実</p> <p>カ. ホームページ、学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる。</p> <p>キ. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれにより PTA 活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア. 新課程のカリキュラムを地域を分厚く支える人材育成を視野に入れて構築する。具体的にはインターンシップ関係の取組みを年1回以上行う。</p> <p>イ. 人権や生徒の安全に係る研修を年間5回以上実施できたか</p> <p>ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率55%以上(R1:53%)</p> <p>エ. 学校閉庁日、定時退庁日の設定。部活動ガイドラインの徹底。時間外勤務月一人当たり平均を45時間以内とする(R1:47.7時間)</p> <p>オ. 1年間に3件以上改善できたか</p> <p>カ. 定期的に更新できたか</p> <p>キ. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数400名以上(R1:374名)</p>	<p>ア. 「インターンシップの取組み」1回(○)</p> <p>イ. コロナ禍により、講師を呼べなかった。「人権や生徒の安全に係る研修」3回(ー)</p> <p>ウ. 「学年間連携」肯定率57.1%(○)</p> <p>エ. 時間外勤務月一人当たりの平均時間23.9時間(◎) ・会議のスリム化、合理化。 ・学校閉庁日(夏期・冬期)</p> <p>オ. 雨漏りの補修、廊下の補修など(○)</p> <p>カ. (○) ・学校行事などのブログ発信 ・公式ツイッターの更新 ・マチコミメールの定期的な発信(週1回)</p> <p>キ. コロナの影響で制限をかけたため、来校者は減少(ー) 体育祭 123名▼(昨年214名) 文化祭 82名▼(昨年160名)</p>
--------------	-------------	--	---	---